

春告草

第21号 令和3年1月13日 進路指導部発行

新年にあたって～受験生のみなさんへ

自處超然、得意淡然

学校長

藤野 泰 郎

これからの心構えにおいて大切なことをお伝えします。今まで頑張ってきたことを信じ、周りで起こる雑音は気にしないで超然としていきましょう。着々と自分の道を歩み、そして、油断、驕り高ぶる気持ちをぐっと抑え、日常生活を改めて整え、残余の時間をひたむきに勉強して受験に立ち向かうのです。常に「平常心」という訳にはいかないまでも、そうした心構えでいてください。とにかく自分自身を見失わないことです。勝海舟が座右の銘とした「六然訓」にある6つの文言（「自處超然」「處人藹然」「有事斬然」「無事澄然」「得意淡然」「失意泰然」）のうちから、特に表題の2つを皆さんに贈り、心から健闘を祈ります。

大丈夫、6期生の皆さんなら大願成就できます！

落ち着いて着実に

前期課程副校長 山本 進一

受験生の皆さんには、鷹校における多様な体験活動や部活動、特別活動によって、大学受験を乗り越えられるだけの学力や体力、気力が十分に蓄えられ、身に付いています。特別な6年間を過ごした仲間と先生もついているので安心です。これまでしっかりと勉強してきたのですから、焦らなくて大丈夫です。受験日に向けて落ち着いて、無理なく着実にできる準備をして、その日を迎えてください。皆さんが志望校に合格し、それぞれが思い描く未来を手に入れることを心から祈っています。

自分を信じて、あきらめなければ逆転できる！

後期課程副校長 細野 誠治

この1年、入試当日に向かって皆さんは頑張ってきたのだから、緊張しないわけがないですよ。無理に「緊張しちゃダメだ」と思うのではなく、「緊張するのが当たり前だ」と割り切ってしまうでしょう。気持ちが少し楽になりますよ。

これまでの自分の頑張りを思い出してみましょう。初めは新品だった参考書や問題集も今ではボロボロになり、でも手に馴染むようになっていないのですか。それこそ自分が頑張ってきた証です。自分を信じましょう。何より大切なのは、あきらめないこと。何度も言われているかもしれませんが、多くの受験生が毎年、模試の不利な判定を覆して合格を手にすることができています。最後まで結果はわかりません。全力で挑んでみてください！

これから受験する皆さんへ

進路指導部主任 高 梨 実

大学入試は、模擬試験とは違います。自分の試験の点数は、分かりません。(共通テストの成績通知を希望している人は、4月中～下旬に返ってきます。記念にはなりません。)他の人の試験の点数も、分かりません。もちろん、偏差値も出ません。

水泳や短距離走のように、隣の人を見ても、どちらがリードしているか、分かりません。フィギュアスケートのように、他の人の点数を見てから受験することもあります。サッカーやバスケットのように、直接接触することもあります。

問題や解答用紙は、敵ではありません。もう戦う必要はありません。皆さんがすることは、今まで覚えてきたこと、考えてきたことを、解答用紙の上で、表現することだけです。今までの活動をプレゼンすることは、それ自体楽しいことです。こんなに努力してきたんだと、実感できるからです。試験時間が終わったときの充実感は、なかなか味わえるものではありません。

ぜひ、楽しんできて下さい。

初の共通テスト直前最新動向 「2021年入試はこうなる」

駿台教育研究所進学情報事業部 石原賢一郎長

模試の動向を見ると、今年も受験の安全志向は見られ、短大や専門学校を志望校として書く受験生が増えています。ただ、浪人が減ったこともあり、今年の入試は現役生にとっては有利な入試になるはずです。それだけに最初に強調しておきたいのは、センター試験から共通テストへの衣替えやコロナ禍の中での入試で、受験生には不安が大きいです。安易に志望校を下げることなく、希望している大学や学部があるなら、積極的にチャレンジしてほしいということです。

緊急事態宣言再発令で地元志向に拍車

感染リスクを避ける意味からも地元志向が強まっています。1都3県で再び緊急事態宣言が発令され、その傾向がさらに強まりそうです。ちなみに、駿台予備学校が12月13日に行ったプレ共通テスト模試によると、国公立大の学部別志望動向は前年と比べ、減少幅が大きくなっています。国公立大の入試は共通テストのウエートが大きだけでなく、これまでのセンター試験に比べて負担感が大きくなっていることも国公立大の不人気に影響しているようです。

11月に実施した模試から、国公立大の個別の状況を見てみましょう。東大や京大などの難関大志望者は堅調です。これらの大学の多くは個別試験重視の配点であることとも関係があります。ただ、共通テスト重視の配点となっている神戸大は共通テストへの不安が志望動向に表れており、志願者を減らしそうです。また、筑波大やお茶の水女子大、横浜国立大といった首都圏の大学で減少が目立っています。その中で千葉大は個別試験重視の学部が多いことから難関大からの志望変更の受け皿となっているようです。横浜国立大は共通テストのみで合否が決まることを早くに打ち出しましたが、今のところ個別試験がなく逆転が望めないこともあり人気がありません。

入試方式変更の私立大は志望者減に

入試方式を大きく変える大学は志望を大きく減らしています。早稲田大政経学部、国際教養学部、スポーツ科学部で共通テストを課す方式に変更していますが、いずれも志望者を減らしています。一方で共通テスト利用方式を廃止し、一般方式に変更した商学部は増えています。共通テスト利用入試を拡大した上智大、青山学院大も減少幅が大きくなっています。立教大は文学部以外で共通テストの英語または英語外部試験が必須ですが、全学部入試の拡大と試験日複数選択制が浸透してきたことで、昨年のような落ち込みはなさそうです。入試改革に慎重な明治大や法政大は堅調です。

私立大では、コロナ禍での地元志向、安全志向で茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県での志願者が増えそうです。一方で東京都や神奈川県での大学の減少が目立ちます。(裏面へ)

最後に医学部医学科の状況ですが、国公立大はコロナ禍への対応として面接を取りやめた名古屋大が大幅増加しています。私立大は、学費を値上げする東京女子医大以外は、どこも激戦となっています。今回の入試までは定員増が続きますので、最後のチャンスといえるでしょう。

安易な志望変更は禁物。積極的なチャレンジを

まずは入試直前の体調管理が最重要となります。コロナ禍ということもあり、マスク着用、手洗い、うがいといった感染予防の基本を徹底し、遠隔地に移動しての受験の際も、食事をする時は、できるだけ多くの人が集中する場所を避けるといった工夫も必要です。

各大学ともコロナ対策として、入試直前までいろいろな対策を行っています。志望校のホームページのチェックは最後まで怠らないようにしましょう。そして、共通テスト受験者は、まずは共通テストを重視してほしい。コロナ禍で最悪の場合には個別試験の実施がなくなり、共通テストの成績での合否判定となる大学もあるので、たとえ初日の教科で失敗しても、最後まで全力を尽くして、1点を重ねる努力をしてほしいと思います。

今年は、共通テストが初めて行われるだけでなく、私立大でも新方式の入試が実施され、今まで見たことのない出題が予想されます。ただし、条件は受験生全員が同じです。慌てたり、焦ったりすることは禁物です。落ち着いて対応してください。

ところで、今年は共通テスト後の自己採点が例年以上に重要になりそうです。主要な自己採点集計にはキチンと参加して、客観的なデータに基づく国公立大出願をしてほしいです。

最初にも述べましたが、1都3県での緊急事態宣言の再発令もあり、もともと模試動向に見られた安全志向にさらに拍車がかかる状況です。だからといって、ずっと目指してきた志望校を簡単にあきらめるのは得策ではありません。難関大敬遠の動きがあるだけに、最後まで諦めず、果敢にチャレンジしてください。

(波線は本校にて添付)

大学受験 Topics

東京外大が「午後から入試」に コロナ対策で異例の直前変更

新型コロナウイルス感染拡大を受け、東京外国語大は6日、来月25日に控えた2021年度入学の前期試験の一部を変更すると発表した。英語の問題数と試験時間を減らし全体の試験開始を午後からに繰り下げた。地方から試験日に上京し、日帰りできる受験生を増やし、会場で受験生が一斉に昼食を食べる状況を回避するのも目的だという。この時期の入試方法の変更は異例とみられる。

同大は東京都府中市などにキャンパスがある国立大学。今回の個別入試は、例年全学部で課す英語のスピーキング試験を2学部で見送るなど、コロナ対策に伴う変更をすでにしていた。ただ、昨年12月の感染拡大を受け、改めて試験内容の変更を検討していた。

新たな変更では、2月25日の前期試験で英語の問題数を減らし、試験時間も150分から90分に短縮する。全体の試験開始時間も午前10時から午後1時に繰り下げた。3月12日の国際社会学部の後期試験(小論文)も午前10時～午後0時から午後1時半～3時半とする。「なるべく昼食は済ませた上で来学してください」と呼びかけている。

ただ、前期試験の英語の配点は300点満点のままだが、これまで課していたどの種類の設問を減らすのかは「非公開」(同大広報)だ。「なるべく感染リスクを減らすための対応。感染拡大を受け、(入試1カ月前半の)この時期の変更発表になった」と説明している。

一方、早稲田大は6日、「早稲田大学への受験を考えている方々へ」と題する田中愛治総長のメッセージを公式サイトで発表した。試験会場となる教室の換気設備を入れ替えるなど万全な感染防止策の準備をしている。「緊急事態宣言の発出後も、コロナの感染状況の急激な変化が起きない限りは、本学は基本的には上記の方針を堅持します。ただし、万が一の場合に備えて、常に本学のホームページに注意してください」とアナウンスした。

16日から始まる大学入学共通テストについて文部科学省は、緊急事態宣言が出た場合も予定通り実施すると発表している。

大学入学共通テスト当日の注意 【再掲】

(1) 所持品について

○よいもの 黒鉛筆（H，F，HBに限る。和歌・格言などが印刷されているものは不可）、鉛筆キャップ、シャープペンシル（メモや計算に使用する場合のみ。黒芯に限る。）、プラスチック製の消しゴム（カバーに文字が印刷されているものは外して使用する）、鉛筆削り（電動式、大型のもの、ナイフ類は不可）、時計（辞書、電卓などの機能があるもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものなどは不可）、メガネ、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋、箱から中身だけを取り出して使用）、目薬。（以上は試験時間中、机の上に置くことが許可されている。）
×いけないもの そろばんや電卓、グラフ用紙、定規、コンパスなどの補助具は不可。スマートフォンや電子辞書、ICレコーダーなどの電子機器は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切ってカバンなどにしまう。

(2) 服装について

英文字や地図などがプリントされている服装は禁止。着ていると脱がされる。温度調節のためには、簡単に脱ぎ着できるものが便利である。ひざ掛けの使用はできるが、服装同様に英文字がプリントされているものは不可。座布団、ひざ掛けを使用する場合は試験開始前、試験監督に申し出て、許可を受けてから使用することになっている。

(3) マークシート記入上の注意

解答のマークには鉛筆を使用しなければいけない。最近ではマークシート用の芯の太い1.3ミリのシャープペンシルも販売されているが、通常皆さんが使用している0.5ミリの芯には折れにくくするための硬化剤が成分に含まれている。先の尖った釘でシート表面を削っているようなものだから、マークしたところはフラットではなく、凸凹状になっていて読取時に支障が出ることもある。黒く塗れたように見えてもカーボンの黒ではないこともあるので、決して使ってはならない。

「マークにはシャープペンを使用しない」は厳守である！

また、解答科目がマークされていなかったり、複数の科目にマークされていたりすると「0点」扱いとなる。受験番号が正しくマークされていないと採点されないこともある。注意してマークする練習をしておこう。

(4) 「地理歴史、公民」または「理科②」を2科目で登録した人は登録したとおりに受験する

1科目受験に変更した場合でも、届け出をしていない限り2科目を受験しなければいけない。また、2科目受験の試験時間は130分である。これには答案回収の時間10分が含まれているが、この時間は休憩時間ではない。トイレなどで教室を出ることはできないので注意しよう。

(5) 「受験上の注意 重要」を熟読せよ

上記の事も含めて当日の諸注意が説明されている。受験案内と併せてよく読んでおこう。当日もこの「受験上の注意」を持参すること。

新型コロナ感染予防対策（「受験上の注意」p.3～6参照）

●試験7日前程度から体温測定など「健康観察記録」の作成 p.23

（試験当日持参）

●試験2週間前から発熱・咳等の症状がある場合は必ず病院に行くこと。

●万が一、保健所からコロナ患者との濃厚接触者として健康観察や外出自粛を要請された場合でも無症状であれば受験できる可能性があります。受験を希望する場合は試験前日の午前10時までに受験票記載の「問い合わせ大学」へ連絡し指示を仰ぐこと。

